

令和3年度 学力向上指導改善プラン

三田市立八景中学校長 細見 和孝

| 学校教育目標 | | 自立して目標や夢の実現に挑戦する 生徒の育成 自立・夢・挑戦 | | | | |
|---------------------|---|--|--|--|--|---|
| 推進主体 | | 校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課程担当、図書館教育担当を中心として推進している。 | | | | |
| 学力に関する前年度の状況・経年の課題等 | | | | | | |
| 学力 の 状 況 | これまでの全国学力・学習状況調査結果の状況(教科に関する質問紙調査の結果も含む) | <p>○「読むこと」の領域では正答率が全国のポイントよりも高く、「読むこと」に対する定着がみられる。また、「話すこと・聞くこと」の能力も、少しずつではあるが伸びている傾向がみられる。</p> <p>◆「書くこと」の領域においては苦手意識を抱いており、考えをまとめて自分の意見を具体的に書くということに課題がみられる。</p> <p>○「数と式」や「図形」の分野においては、基礎基本の習得が概ねできている。</p> <p>◆資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。</p> | <p>○わかるよるこびを実感できる学習指導の工夫と授業</p> <p>○学校評価アンケートで、「授業が分かりやすい」という肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。</p> <p>○テーマを設定した互見授業を実施する。</p> <p>○iPadを活用した授業研究を年間2回以上実施する。</p> | <p>○「生徒が主体的に取り組む学習指導～主体的、対話的な深い学びの研究～」を研究テーマとして、学習指導の工夫、授業改善に取り組む。</p> <p>○各学期に互見授業期間を設けるとともに、普段の授業参観も活発に行うことで、成長し続ける意欲を持った教師集団を作る。</p> <p>○iPadの効果的な活用を目指して、授業研究および研修を行う。</p> | <p>2～3月</p> <p>年度末評価</p> <p>(今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p> <p>評価</p> | |
| | 定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科) | <p>○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。</p> <p>◆基礎基本の内容については概ね理解しているが、応用力を必要としり自分で論理的に考えて説明したりということに課題がみられる。</p> <p>◆効率的な家庭学習を行うために、学習計画を立てて実行させるとともに、補習を学校全体の取り組みとして充実させることで、生徒への支援を行う必要がある。</p> | <p>○主体的に学ぶ意欲を育てる学習相談の充実</p> <p>○学校評価アンケートで、「授業が分かりやすい」という肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに90%以上。</p> <p>○全国学力・学習状況調査において、「読書が好き」と回答する生徒の割合が、65%以上。</p> <p>○一日20分以上読書するという生徒の割合が、60%以上。</p> | <p>○全国学力・学習状況調査や日々の学習状況・生活状況の基づいて、基礎・基本の知識や技能の習得に努める。</p> <p>○「ひょうごがんばりタイム」「新学習システム」の推進とともに、学習相談を丁寧実施し、少人数のきめ細かな指導の充実を図る。</p> <p>○生徒会の図書委員会を中心に読書活動の推進を行い、積極的な図書館の活用を進める。</p> <p>○1、2年は朝の10分間読書を継続して行き、読書習慣の定着を図る。</p> | <p>○授業において「ねらい」を明確にし、生徒が見通しをもって授業に取り組み、「自己評価」や「振り返り」を行うことができた。</p> <p>○「ひょうごがんばりタイム」やノー部活デーを利用した「学習相談」で、個々に寄り添った学習支援を行い、基礎学力の定着を図った。</p> <p>◆全国学力・学習状況調査の結果から、「1日20分以上読書する」割合は56.4%。目標の60%には届かなかったが、1、2年で取り組んでいる朝読書の成果もあり、読書の習慣は身につけてきている。今後は、より長い時間をかけて本を熟読する姿勢や、図書委員会の活動とも連携し、様々な分野の本を読む姿勢も育んでいく。</p> | A |
| | 授業等からうかがえる状況(各教科) | <p>○落ち着いた学習態度で、真面目に取り組んでいる。ほとんどの生徒は課題に真剣に取り組む、提出物への意識も高い。</p> <p>◆家庭での学習習慣に一定程度の定着がみられてきたが、集中した取り組みに課題が残る。日ごろから予習、復習に意欲的に取り組めるように、また、生徒自身が学習方法を工夫・改善を行う必要がある。</p> | <p>○学校・家庭・地域の連携と協働の推進</p> <p>○地域ボランティアとの交流や生徒の地域貢献活動を活発に行う。</p> <p>○学校評価アンケートで、「開かれた学校づくり」と「特色ある学校づくり」に関する肯定的評価の割合が、生徒・保護者ともに80%以上。</p> | <p>○家庭や地域との連携を強化し、地域のまつりや防災訓練、奉仕活動等への中学生ボランティアの参加をより活発に行う。</p> <p>○生徒や教職員が地域ボランティアと交流し、意見を交換できる機会を設定する。</p> | <p>○通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に知らせることができた。</p> <p>○人数や時間の制限をしながらではあるが、学校行事やオープンスクールを通して保護者に学校生活を見てもらうことができた。</p> <p>○2年生のトライやる・ウィークの取り組みの中で「八景中八景」として、生徒自らが地域の中の良い景色を見つけ、調べて発表するという取り組みを行った。さらに三田地域部会で発表することができ、学校・生徒の活動を地域に知らせる機会となった。</p> <p>◆感染症対策もあり、地域行事への参加の機会を持つことができず、また外部の方を招いての取り組みも限られてしまった。</p> | A |
| 慣学・力生向上活に慣係等るの学状況 | <p>○学校の規則をよく守り、家庭での基本的な生活習慣も身につけているという生徒が大多数を占めており、概ね良好である。</p> <p>◆家庭学習の時間確保とともに、計画を立てて取り組むことを習慣づける必要がある。</p> <p>○授業が分かりやすいという肯定的評価をする生徒の割合は90%以上である。</p> <p>◆夢や目標を持っている生徒の割合はやや低いが、人の役に立ちたいと考える生徒の割合はとても高い。</p> | <p>○自尊感情・自己肯定感を育成し、自他ともに大切に する心を育てる人権教育の推進</p> <p>○全国学力・学習状況調査において、「自分にはよいところがあると思う」「人が困っているときは、進んで助けている」と回答する生徒の割合が、80%以上。</p> <p>○PTAとともに人権講演会を実施する。</p> | <p>○小学校での学びを教職員で共有し、校内道徳・人権委員会を中心に、系統だった道徳の授業を行う。</p> <p>○各種調査およびアンケート、教育相談等で生徒の実態把握を行い、学習や生活に関わる不安や悩みの解消に努め、個々の生徒理解を図る。</p> <p>○授業のみならずすべての教育活動を通して、成功体験を実感できる機会を増やす。</p> | <p>○日々の委員や係活動だけでなく、行事の中でも一人1役を担うことで、物事に責任感をもって積極的に取り組む姿勢を育てている。</p> <p>○各学期に教育相談週間を設定し、事前アンケートを基に個別で教育相談を行うことで、個々の持つ悩みや不安に対して早期に対応することができている。</p> <p>◆全国学力・学習状況調査の結果では、自己有用感についての回答が目標に届かなかった。様々な活動について、意味づけを明確にし、個々が自分の取り組みに対して自信をもって振り返ることができるように支援していく。</p> <p>◆コロナ禍のため、人権講演会を実施できなかった。</p> | B | |
| 校内研究・研修の状況 | 校内研究の状況 | <p>○学びに向かう力の育成、学びのつながりを意識した学習指導～共に考え、学び合う学習の研究～」をテーマに、研究を推進することができている。</p> <p>◆「キャリア教育」と「特色ある学校づくり」を効果的に推進していくことが課題である。</p> | <p>○自分らしい生き方を実現する力を育てるキャリア教育</p> <p>○トライやる・ウィークでの活動をととして将来について考え、学ぶこと・働くことの意義を理解する。</p> <p>○キャリアノートを積極的に活用して進路学習との連携を進める。</p> | <p>○「トライやる・ウィーク」や「わくわくオーケストラ教室」の取り組みを充実させ、本物に出会う体験をもとに豊かな感性や自ら考えて行動する力を育てる。</p> <p>○キャリアノートを活用し、自己の将来を描くキャリアプランニング能力の育成を図る。</p> | <p>○学年ごとに、成長段階などに応じた進路学習を行っている。</p> <p>○昨年に続き、「トライやる・ウィーク」は事業所での体験はできなかったが、生徒の心を動かす活動をしたり、様々な分野の講師を招いて講演を聞いたりすることで、夢を持ちたり自分のことを見直す機会となった。</p> <p>◆1、2年の進路学習では、「職業調べ」などの抽象的なことが多くなってしまったところがある。将来に向けて明確な目標が持てるように、キャリアノートをさらに有効に活用するなど充実させていく。</p> | B |
| | 校内研修の状況 | <p>○互見授業や授業研究を積極的に行うことで、教師が互いに学びあう体制築き、校内全体で授業改善に取り組んだ。</p> <p>◆iPadを活用したICT教育の研修が後追いにならないように、計画的に推進していくことが課題である。</p> | <p>○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連携教育の</p> <p>○学力向上・生活習慣改善についての小中連携の会議を年間5回以上実施する。</p> <p>○学校評価アンケートで、「学校生活は充実している」という肯定的評価の割合が前年度を上回る。</p> | <p>○授業参観を含めた学校園所連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。</p> <p>○学習規律の小中で統一した指導を協議し、共通理解を図る。</p> <p>○個々の児童生徒の課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。</p> | <p>○学校園所連携連絡会だけでなく、必要に応じてこまめに連絡を取り合うなど、連携して対応できる体制づくりができている。</p> <p>○2年連続で6年生への体験授業はできなかったが、中学校からの出前授業で生徒会制作の中学校紹介動画を見てもらうなど、中学校入学に対する不安解消に努めた。</p> | A |
| 家庭・校種間連携 | 家庭・地域等の状況 | <p>◆家庭・地域と連携して、放課後や夏休みを利用した学力補充を推進していく必要がある。</p> | <p>○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連携教育の</p> | <p>○授業参観を含めた学校園所連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。</p> <p>○学習規律の小中で統一した指導を協議し、共通理解を図る。</p> <p>○個々の児童生徒の課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。</p> | <p>○学校園所連携連絡会だけでなく、必要に応じてこまめに連絡を取り合うなど、連携して対応できる体制づくりができている。</p> <p>○2年連続で6年生への体験授業はできなかったが、中学校からの出前授業で生徒会制作の中学校紹介動画を見てもらうなど、中学校入学に対する不安解消に努めた。</p> | A |
| | 小・中における教科連携等の状況 | <p>○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの連続性を大切にしたい取り組みを進めている。</p> <p>○子どもの「学びのすがた」や「育ちのすがた」を共通理解して、積極的な交流が行えている。</p> | <p>○育ちと学びの連続性を重視した学校園所連携教育の</p> | <p>○授業参観を含めた学校園所連携連絡会を開催し、9年間を見通した指導を推進する。</p> <p>○学習規律の小中で統一した指導を協議し、共通理解を図る。</p> <p>○個々の児童生徒の課題を具体的に把握することで、小学校から中学校への接続が円滑にいくようにする。</p> | <p>○学校園所連携連絡会だけでなく、必要に応じてこまめに連絡を取り合うなど、連携して対応できる体制づくりができている。</p> <p>○2年連続で6年生への体験授業はできなかったが、中学校からの出前授業で生徒会制作の中学校紹介動画を見てもらうなど、中学校入学に対する不安解消に努めた。</p> | A |